

感染対策の決め手 新型コロナウイルス 集団接種

市は5月1日、新型コロナウイルスウィルス感染症の感染対策の決め手となる新型コロナウイルス集団接種をスポーツアリーナそうま第一体育館で開始しました。

新型コロナウイルス接種は原則集団接種とし、厚生労働省の方針に従った優先順位で、各地区ごとに接種日時を指定して実施。

当日は、3月に送付した意向調査はがきで接種を希望すると回答した65歳以上の高齢者のうち、約300人が医師によるワクチン接種を受けました。



自衛官募集相談員 委嘱状交付式



自衛官募集相談員委嘱状交付式は4月16日、市役所で行われ、7人に委嘱状が交付されました。

同相談員は、地域で自衛官募集の広報活動などを目的としており、任期は令和5年3月31日までの2年間。

式で、阿部勝弘副市長と岡本良貴自衛隊福島地方協力本部長が一人一人に委嘱状を手渡しました。

阿部副市長が「自衛官の募集活動や相談業務に協力ください」とあいさつし、岡本本部長が自衛官募集の現状と相談員の重要性が述べられました。

取り組みの成果が評価を受ける 交通事故防止コンクール

阿部勝弘副市長は4月6日、市町村別交通事故防止コンクールで本市が1位を受賞したことを市交通対策協議会に市役所で報告しました。

評価方法は、各市町村で発生した交通事故数などから令和2年の事故発生増減率を算出し、人口区分ごとに増減率から交通事故防止策への取り組み状況を位置づけるもの。

本市は、人口3万人以上の市のグループで1位を受賞しました。



「食」と「農」に関心をJAふくしま未来

所で行われ、千田祥子ふくしま未来農業協同組合北部エリア代表支店長兼相馬中村総合支店長ら4人が訪れました。

同教材は、私たちの生活を維持するために必要な「食」を生み出す農業の仕組みなどが分かりやすく説明されている小学校高学年向けの補助教材です。

千田支店長は「子どもたちが農業に関心をもっていただけるよう活用ください」と述べ、教材を手渡しました。



「農業とわたしたちのくらし」贈呈式は4月14日、市役

事業者支援を要望 相馬商工会議所



4月19日、草野清貴相馬商工会議所会頭ら5人が市役所を訪れ、立谷市長に新型コロナウイルス感染拡大に伴う市内事業者などへの支援に関する要望書を手渡しました。

要望は、市内商業施設や飲食店、宿泊施設をはじめとする個人事業主や中小企業など、多くの事業者の売上減少に伴う経営への影響に対して、国や県に対する支援の働きかけを求めるもの。

要望書を受け取った立谷市長は「要望を重く受け止め、国や県に事業者支援の要望を行っていききたい」と述べました。

港湾・漁港の美化活動のために 相馬マリンサポーター合同調印式



相馬マリンサポーター合同調印式は4月20日、市役所で

行われました。

相馬マリンサポーターは、相馬の美しい海を守ることを目的に、相馬港、松川浦漁港の美化運動や適正な利用のための啓発活動を行うボランティア団体で、港湾・漁港のための合同調印式は県内初。当日は、相馬マリンサポーター代表の木須加奈子さん、立谷市長、近内剛県相馬港湾建設事務所所長が合意書に署名し、調印しました。

大雨災害などに備える 市排水ポンプ車の初訓練

市排水ポンプ車の初訓練は4月22日と23日、蓮池東側で行われ、関係者13人が参加しました。

排水ポンプ車緊急排水業務の支援に関する協定を結んでいる相馬市総合建設業組合と合同で実施。

当日の訓練は、機材や基本操作、注意事項などを確認したほか、実際に蓮池の水をくみ上げ、排水作業を行いました。



寄贈ありがとう NPO法人ふれあいサポーター館アトリエ



NPO法人ふれあいサポーター館アトリエによる本の寄贈は5月10日、市役所で行われました。

寄贈いただいたのは、倉本信之氏の手彩色木版画集「相馬名勝三十景」と、相馬絵画研究所創立55周年記念として編さんされた「命の逆算」をそれぞれ100冊。

「相馬名勝三十景」は、相馬の名勝を地域共有の文化財として後世に伝えていく記録の一つとして活用することなど、「命の逆算」は、相馬絵画研究所で学んだ皆さんの方たちの貴重な体験やメッセージを次世代に伝えることなどを目的に発行されました。

被災高齢者の生活支援に 寄付ありがとう

蔵王リース株式会社の平間征太郎会長と平間宏樹代表取締役は4月28日、市役所を訪れ、立谷市長へ寄付金を手渡しました。

同社は、地域貢献の一環として、東日本大震災以前より継続的に本市への支援を行っています。

寄付金を受け取った立谷市長は「ありがとうございます。被災高齢者の生活支援のために活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



お金の絵本を寄贈 相馬商工会議所青年部

役所で行われ、西村昌也相馬商工会議所青年部会長ら4人が訪れました。

同絵本は、日本商工会議所青年部が渋沢栄一翁プロジェクトの一環として、子どもたちにお金の大切さを知ってもらうことを目的に制作したものです。

西村会長が「この絵本を読んで、経営やお金に興味を持ってもらいたいです」と述べ、立谷市長に絵本を手渡しました。



絵本「おかねってなあに？」の寄贈は5月6日、市